

Y05b すばる望遠鏡建設記録映画の制作とその広報・普及利用の評価

縣秀彦、唐牛宏、福島登志夫、家正則、林左絵子、布施哲治、野口邦男、海部宣男（以上国立天文台）、小平桂一（総研大）、今泉文字（UNリミテッド）

すばる望遠鏡建設過程の撮影は、国立天文台が企画し、建設に関係した各企業の支援・協力のもと、岩波映画およびその後を継いだUNリミテッドが担当した。その中には、1991年度建設開始前後の議論のようすから、主鏡ガラス材の製作、研磨、輸送の工程や、国内での望遠鏡構造物や能動光学機構の製作、仮組、ハワイ観測所の建設、現地据付、観測装置の製作、ファーストライト、そして本観測などが含まれている。膨大なフィルムをもとに、この一大事業を多くの方々に知ってもらい、さらに後世に残すため、天文台内外からの建設記録映画編集委員の協力のもとに、日本語版・英語版併せて計8種類の映像作品を作成した。その中でも2002年に出来上がった「未知への航海」(16mmフィルム版、55分作品)は、毎日映画コンクール記録文化映画賞(短編)、文化庁優秀映画大賞(短編部門)、科学技術映像祭文部科学大臣賞(科学技術部門)、さらに日本産業映画・ビデオコンクール大賞を相次いで受け、それ自体が映画作品として高い評価を得ている。国立天文台では年数回の映写会実施のほか、希望する教育・普及団体を対象に16mmフィルムの貸出を行っている。一連の作品の素材とも言うべき膨大な撮影資料は、見たい部分をランダムアクセスできるよう、120分のDVD作品に取りまとめた。国立天文台としては、このDVD作品を正式なすばる望遠鏡建設記録として位置づけ、関連する研究機関・教育機関等に配布し、利用していただいている。本発表では、視聴者からのアンケート調査の結果をふまえ、これらの作品群の教育・普及利用の効果について述べる。さらに、今後の科学記録映画がどうあるべきか、どのように教育・普及の現場へ提供すべきかを考察する。